

経営比較分析表

大分県 豊後大野市

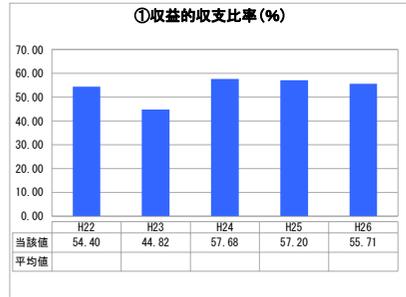
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	8.56	92.97	3,606

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,643	603.14	64.07
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,281	1.51	2,172.85

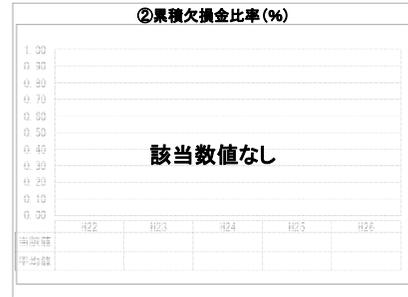
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

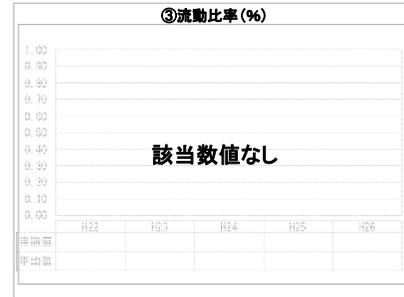
1. 経営の健全性・効率性



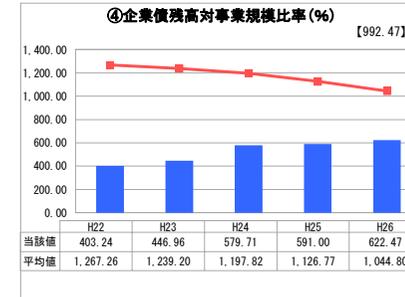
「単年度の収支」



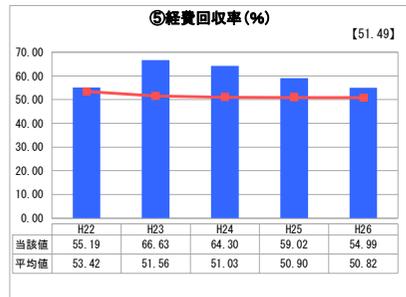
「累積欠損」



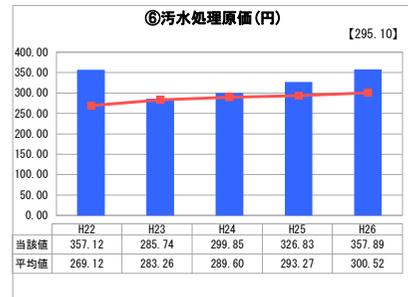
「支払能力」



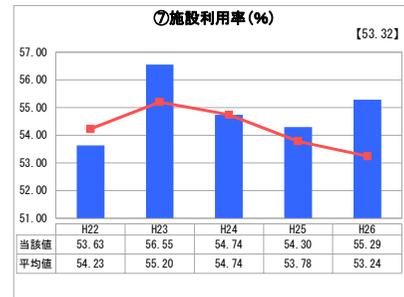
「債務残高」



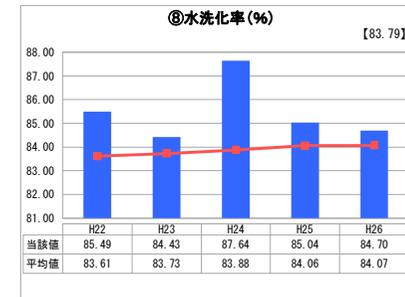
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

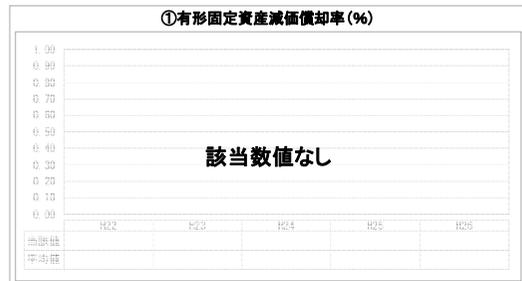


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率については、総収益は増加し、地方債償還金は減少している中、収支比率が平成24年度から減少傾向であることから、経年劣化や増税等の影響による維持管理費が増加していることがわかる。

企業債残高対事業規模比率については、平準化債の発行により増加傾向にあるが、類似団体と比較すると低いことから、企業債残高に対する一般会計の負担すべき金額が比較的大きいことも窺える。

経費回収率については、増税に伴う経費の増加や、使用料収入の減少に伴い、減少している。汚水処理原価については、経費回収率と同様の理由で増加している。

施設利用率については、平成26年度に一時的に増加しているが減少傾向にあり、処理施設の統合等の検討が必要である。

水洗化率については、85%前後で推移しているが、今後も未接続世帯への更なる普及促進を図り、水洗化率向上に努める。

2. 老朽化の状況について

25年を超える施設もあるが、耐用年数までに期間があるため管渠改善率は0%となっている。今後も定期的な管渠清掃等を行いながら、維持管理に努める。

全体総括

今のところ「経営の健全性及び効率性」は類似団体と比較して同様な経営ができています。今後も定期的な点検を行い施設の長寿命化を図る必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。